

受賞者の 喜びの声

◆特別表彰◆

●●銀章●●

善行銀章を受賞して

東京都三鷹市

浅見 司朗



この度、令和三年度春季特別善行銀章という栄誉ある賞を賜り厚く御礼申し上げます。約四十年前、三鷹市青少年対策高山地区委員会の発案で

「小学校の卒業を祝う竹ぼうき作りの会」が設けられ私がその指導者として任命されました。地区委員をはじめ地域の方々の応援をお借りして毎年約百六十名の卒業生が十名のグループに分かれ皆で協力しながら竹ぼうきを制作体験します。制作した箒で校庭を掃除すると落ち葉があつという間にまとまる魔法の竹ぼうきと好評です。長年の間には材料の確保に頭を悩ませ、また体力的に困難な時期もありましたが、家族をはじめ多くの方々の協力のおかげで三十七年間続けることができた。多くの伝統工芸が失われていくこの時代にもまだまだ色々な場所でも竹ぼうきが使われています。幸い私の箒の愛好家も多数いてくれるので、今では東京都で唯一の竹ぼうき職人となった私は今後今以上に微力ながら社会貢献していきたいと思っております。

支部だより

宮城県支部

春季善行表彰伝達式

三浦 忍

梅雨入り間近の六月七日、春季善行表彰を受賞されました仙台市立中野栄小学校を飯田勝男支部長と訪問いたしました。

校長室におきまして、山澤一郎校長、井上竜一教頭先生に勝野堅介日本善行会会長の代理で



飯田支部長が表彰状を代読し、賞状と盾を伝達しました。懇談では、支部長より善行会の設立から活動表彰過程の説明が行われ、和やかに伝達式が終了いたしました。

善行銀章を受賞して

山口県和木町

山本 和彦



この度、令和三年度特別善行銀章という栄誉を賜り大変光栄であり、多くの方に感謝申し上げます。子供たちの居場所作りを警察の方と実施して三十四年が経ち、今思うと多くの人に会った感じがした。特にこの十年は子供たち目線で考え何が足りないのか？何を欲しいのか？を読み取り活動してききました。

静岡県浜松支部

油田花の会表彰

昨年、日本善行会の秋季善行表彰の環境美化で表彰された油田コミュニティ花の会が、地元の見聞で紹介されました。常日頃から頑張っている花の好きな皆様が大変喜んで下さいました。コロナ禍の今とても明るい話題となりました。



●●銀章●●

物は裕福になつたものの、心は相変わらず寂しい

温かい思い遣りを欲していると感じ、今まで以上に子供たちの居場所作りとして『タケノコ掘』『竹林整備作業』『ハイキング』『山菜取り』『芋の苗植えと芋堀り』『清流の沢登り』『川の生物の調査』これらの活動後は一緒に食事をするのが定番で、必ず温かい『天ぷら』を作つて一緒に食べました。この温かい天ぷらは凄く好評で子供たちも加わると次回はまた参加したいと言つて次回も参りが増え、笑顔になる子供が増え、健全育成・立派な直り支援は壁をなくし継続が大切だと実感しました。これからも、子供目線で見ると、寄り添つて一人でも笑顔の子供が増えることを願つて活動したいと思つています。この度はありがとうございました。

東京都新宿支部

AEDは地域の味方！

支部長 前田 哲也

私が経営する銭湯にAEDを設置して十七年になりました。急病人が発見した場合いつでも地域の方が使えます。地域開放講習会も二十年以上前から定期的な開催として善行の防犯の拠点として善行に励んでいます。当店では災害時に対応できるように地域の防災訓練に協力しています。地域の防災訓練に協力しています。地域の防災訓練に協力しています。

●●銀章●●

善行銀章を受賞して

東京都中央区

船木 恵子



思えば十年前、青少年指導への貢献で善行章を受賞し、少年補導員を卒業後は、以前から開室してしまひた人形教室(木目込み、押絵etc)を地域の皆様を対象に、通算三十年ボランティアとして行つてきました。一年一回の作品展を目標に作

群馬県北毛支部

春の環境美化活動の実施について

去る五月二十二日(日)渋川市の利根川河川敷公園と北橋総合グラウンド周辺において、大同特殊鋼無線赤十字奉仕団、共愛学園前橋国際大の学生ボランティアと合同の環境美化活動を行いました。この環境美化活動には、当支部長以下四十二人の会員、大同特殊鋼無線赤十字奉仕団十六人、共愛学園前橋国際大の学生



●●春季表彰●●

善行表彰を受賞して

茨城県つくば市

CoMedつくば

この度は、令和三年度春季善行表彰を賜り、心より御礼申し上げます。CoMedつくば(コムドックバ)は筑波大学の医学群医学類、看護学類の有志から構成される学生団体です。「命を救うアイデアを、地域みんなで創り上げる」を合言葉に、主に茨城県筑西市の小中学校で健康に関する講習会を開催しています。

講習会の内容は様々ですが、特に力を入れてるのは「心肺蘇生法」の普及です。近年AEDは身近な場所でも設置が進んでおりますが、肝心なのはそれが必要な時にきちんと使用されているか、という事です。目の前で誰かが倒れた時、その人を救うには前もって心肺蘇生法の訓練を行うことは非常に重要であると考えています。



現在は新型コロナ禍であるため、検温、消毒、マスク着用など感染防止には、十分配慮しながら実施したところ、拾い集めたごみの量は、軽トラ約一台分と思っても寄らないほどの沢山のごみを拾い集めることができました。参加した人達の環境美化へ充実感と意識高揚を図ることができました。

